

## 全国大学生生活協同組合連合会 第68回通常総会へのメッセージ

全国大学生生活協同組合連合会第68回通常総会の開催を心よりお祝い申し上げます。

さて、貴連合会の40年近く続く「学生生活実態調査」において、昨年度、「学生生活に満足している」との回答が90.2%と、調査開始以来、最高の割合となった旨お伺いしました。

長らく続いたコロナ禍による様々な制約が解消され、学生のみなさんが全国各地のキャンパスで、「当たり前前の大学生活」を享受し、二度と戻ってこない青春の一時を謳歌している姿が浮かび、大変嬉しく思いました。

他方、昨今の学生生活では、奨学金返済に対する将来の不安や消費者トラブルに見舞われることに対する不安もあるとのことでした。また、広く社会に目を向ければ、相次ぐ大規模災害や世界各地での紛争もあり、我々を取り巻く環境は混沌としております。

もとより生協の本旨は、助け合いの精神に基づき、地に足の着いた日々の生活をどうしたらより良く送っていけるかを、組合員を始め関係者が真摯に考え、相互に理解を深め合いながら合理的な実践に移して

いくことにあると考えています。

本総会の議案である「2025年度全国の大学生協の活動方針」の中にも、「対話を通じて組合員が本当に願っていることは何か掘り下げ、その願いに対して、生協でできることは何かを組合員とともに解決策を考えましょう」との一節があります。

「願い」の背景は単純なものではなく、対話の先に確たる答えは見いだせないことも多いかもしれません。しかし、「願い」を受け止めようとする対話そのものやそこから始まる小さな行動にこそ、生協の活動としての意義深さが存在するのではないのでしょうか。

役員や総代の皆様は学業との両立もあり、生協の活動に携わることにはご苦勞も多いかと思いますが、若いみなさんの行動力に大いに期待しております。

結びに、学生役員や総代・組合員の皆様のみならず、貴連合会並びに会員生協の役職員・関係者の皆様全ての日々のご尽力に感謝いたしますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍、そして、大学生協の更なる発展を祈念いたします。

令和6年12月14日

厚生労働省社会・援護局地域福祉課

消費生活協同組合業務室長 小野 博史